

# 生成 AI 利用に関するガイドライン

学校法人石川義塾

## 1. 目的

生成 AI は、学習や生活のさまざまな場面で役立ちます。本ガイドラインは、本校生徒が生成 AI を正しく、安全に、そして学びを深めるために活用できるようにすることを目的とします。

## 2. 基本的な考え方

### (1) 最終判断と責任は人間にある

生成 AI の出力はあくまでも「参考の一つ」。最終的には、自分で考え、判断することが大切です。

### (2) 教育の目的に沿った活用

学びを深めたり、表現力を広げたりするために効果的かどうかを吟味して利用します。

### (3) AI を使いこなす力の育成

各教科を通じて「AI を適切に使いこなす力」を意識的に育てます。

### (4) 教師の役割

生成 AI の仕組みや特徴を理解し、授業や課題の中で安全かつ効果的に使えるように指導します。

### (5) 情報モラルの強化

情報の信頼性を確かめる力、著作権や個人情報に配慮する態度を高めます。

## 3. 利用に関する指針

### (1) 確認と批判的思考

- ・出力を「正しい」と決めつけず、教科書や信頼できる資料と照らし合わせる。
- ・出力をそのまま提出せず、自分の言葉でまとめる。

### (2) プライバシーとセキュリティ

- ・氏名・住所・写真など個人情報は入力しない。
- ・入力情報が学習に使われない設定（オプトアウト）が可能なサービスを優先して利用する。

### (3) 公平性と透明性

- ・出力に偏りががないかを考える。
- ・AI を利用した場合は「AI を使った」と明示する。

### (4) 学習支援のバランス

- ・まず自分で考えてから AI を利用する。
- ・AI への依存を避ける。

#### 4. 学習活動における活用例

- ・ AI が生成した誤りを教材として使い、情報の正確性を見抜く力を育てる。
- ・ グループ討議の途中でアイデアを整理し、再検討する。
- ・ 英会話や日本語学習の相手として活用する。
- ・ 単語リストや例文リストを作成する。
- ・ 自分が書いた文章を AI に修正させ、さらに推敲する。
- ・ プログラミング授業でアイデアを形にするサポートとして使う。
- ・ 教科書内容を自分の進度に合わせて理解するための補助説明を得る。

#### 5. 不適切な活用例

- ・ まだ情報モラルが十分育っていない段階で自由に使用する。
- ・ コンクールの作品やレポートを AI が作ったもののまま提出する。
- ・ 詩や俳句、音楽・美術など感性や独創性を大事にする場面で安易に使用する。
- ・ 教科書など信頼できる教材を使わず、最初から AI に依存する。

#### 6. 著作権の考え方

- ・ AI が作ったものは著作権がない場合が多いが、既存の作品に似た表現が含まれることがあるため注意が必要。
- ・ 他人の作品を模倣させて使うことは著作権侵害につながる場合がある。
- ・ 授業の中での利用は教育目的として認められるが、授業外で公開する場合は侵害の可能性がある。
- ・ 課題や作品で AI を利用した場合は、ツール名・入力した内容（プロンプト）・出力・日付などを明記することが望ましい。
- ・ 学習課題では、自分の理解や経験に基づいた表現を大切にすること。

## 生成 AI 利用チェックリスト（中学・高校生向け）

### 1. 利用する前に

- 自分でまず考えたり調べたりしましたか？
- 個人情報（名前・住所・電話番号など）を入力していませんか？
- 他人を傷つけたり不快にさせるような目的で使っていませんか？

### 2. AI を使ったときに

- 出てきた答えを「正しい」と決めつけず、他の資料や教科書で確認しましたか？
- 出力をそのままコピーせず、自分の言葉に直しましたか？
- 内容に差別的・攻撃的な表現が含まれていないか確かめましたか？

### 3. 結果を使うときに

- 「AI を活用した」と先生や友達に正直に伝えられますか？
- 自分の理解や考えがしっかり表現されていますか？
- 他人の著作物を不正に利用していないことを確認しましたか？

## 生成 AI 利用チェックリスト（先生向け）

### 1. 生徒が利用する前に指導すべきこと

- 目的を明確にしているか（調べ学習の補助、文章表現の改善など）。
- 自分で考えた上で利用するよう伝えているか。
- 個人情報や秘密の情報を入力しないように注意させているか。
- 課題の「提出物は自分の言葉で書くこと」を徹底しているか。

### 2. 利用中の確認

- 生徒が AI の出力をそのまま利用していないか。
- 出力の内容を検証・確認しているか指導できているか。
- 不適切な発言・差別的表現が含まれないかモニタリングできているか。

### 3. 利用後の指導

- 生徒が「AI を活用した」と正直に説明できる環境を作っているか。
- 生徒が自分の理解や考えを反映できているかを確認しているか。
- 著作権に関する基礎知識（他人の作品を模倣しない、出典を示すなど）を指導しているか。

### 4. 学校としての対応

- 授業や課題での生成 AI 利用ルールを学年・学科で共通化しているか。
- 不適切利用があった場合の対応フロー（注意・再指導・保護者連絡など）が定められているか。
- 定期的に AI 利用についての研修・情報共有を行っているか。